

む。すると留め金はその鎖錠位置から離れ、カージオイド形の溝の 2 本の分岐コース 2 3 のうちの一方に沿って移動し、外側転回点 2 2 に戻ることができる。これは、ピストン 1 1 がスリーブ 1 0 に対して適当な距離だけ軸方向に相対的に移動することを可能にするので、ゴム製リングは再び軸方向に伸びることができ、それと同時に半径方向には縮小して溝 1 7 から離脱する。すると、ばね 1 3 とゴム製リング 1 6 とのレジリエンスによって、タンク・カバーが正規の開放位置にまで開く。

【0016】

本発明は上記の実施例に限定されるものではない。タンク・カバーを給油管の外向きフランジに取り付けず、車体に取り付けることが可能であることは、既に記述したが、そのほか鎖錠装置の構成も、既に示したカージオイド形の溝と留め金を用いるもの以外に、例えばボール・ペンのチャックずらせ機構に似たものであってもよい。

【0017】

【発明の効果】

本発明のキャップは、外からちよつと突くだけでロックを解くことができ、同様にちよつと押し込むだけで再び密着状態でロックしてシールすることができるので、多様な自動給油方式と組み合わせて用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のキャップが半開きの状態にあることを示す断面図である。

【図 2】

前記キャップが閉鎖状態にあることを示す断面図であって、ピストンの側面に設けられたカージオイド形の溝は、説明の便宜上、1 個余分のものを、中央部分に書き入れてある。

【図 3】

図 1 および図 2 のタンク・カバーの内側に設けられる閉鎖部材の個別部品を分解して示す図である。

【符号の説明】